

## 編 集 後 記

3月3日はひな祭り、女の子が健やかで優しい女性に育つことを願うお祝いです。その願いを込めて、父は僕の娘に木目込み人形の雛飾りを作ってプレゼントしてくれました。父と違い手先が器用でない僕は二人の孫娘に立ち雛と桃の花をデザインした薩摩ボタンを送りました。ひな祭りのご馳走といえば、お寿司と蛤のお吸い物です。蛤の貝合わせという遊びがあるように蛤の貝殻は対の物としか密着しない特徴があり、プラスチック容器のなかった祖父の時代は、軟膏を処方する際に使用していたという話を祖母から聞いたことがありました。

誌上ギャラリーは、池田敏郎先生の「境内に満ちる光」と題した春を感じる精矛神社境内の桜です。みなさんは花見をする決まった場所がありますか？僕は自転車で甲突川縁のサイクリングロードを下口付近からライオンズ公園まで上りながら眺めるのが毎年の定番です。

論説と話題は、当会執行部、県医師会執行部と市町村行政との現地懇談会の報告と第61回九州首市医師会連絡協議会の報告でした。医師会活動の現状と課題、そしてその解決策を考える一助となりますのでご一読ください。

学術は3題です。1題目は、皮膚がん登録者数日本一を誇る鹿児島医療センター皮膚腫瘍科の青木恵美先生から「高齢者皮膚がん診療における早期受診啓発の意義」と題した論文です。僕のライフワークともいえる太陽紫外線防御対策の始まりは皮膚がん対策で、WHOは毎年150万人が紫外線による皮膚がんを発症すると推定しています。海外と比べて低かった我が国の皮膚がん発率は、超高齢社会へと移行した現在は増えています。鹿児島は北緯31度、サハラ砂漠と同緯度で太陽紫外線防御対策も大切ですが、進行しないと受診をしない高齢者が多い現状を変える取

り組みも重要だと考えています。

2題目は、鹿児島大学大学院乳腺甲状腺外科学中条 哲浩教授が「甲状腺疾患治療の最新トピックス」と題して、「甲状腺癌取扱い規約（第9版）」の治療方針への影響、遺伝子診断に基づく個別化治療、発展してきた内視鏡技術などについて解説して下さいました。

3題目は、令和7年度鹿児島市内科医会1月例会の特別講演で、今村総合病院 膠原病・リウマチ内科部長の伊藤加菜絵先生の「日常診療における血管炎 - 早期診断のコツと最新の治療 -」と題したANCA関連血管炎の概要と治療に関する詳しいお話でした。

今回のリレー随筆は、県立大島病院の河野裕佳先生の『私と「食べる」』というお話です。食べることの大切さ、思い出深い食べ物の話、そして、食べ物のおすそ分けが盛んな人ほど精神的・社会的な健康を反映するスコアが高いという話は大変興味を持ちました。僕も美味しい物をみんなに配るのが大好きで、最近一番のヒットはコストコで購入した「バンザイ山椒」です。また、僕も大島病院に赴任した時にミキに関して同じような症例を経験したことがあり、奄美の人たちにとってのソウルフードであることを実感しました。

鹿市医狂壇の今月の題吟は「支度（したっ）」でした。投稿者不足で存続の危機にありますので、皆さん奮ってチャレンジ投稿をしてください、今回も編集委員にSOSの連絡メールがあり、僕も拙い1句投稿しました。

3月は別れの季節でもあります。森岡康祐先生が市立病院を今月末で退職されるために編集委員も退任されます、長年に渡りご苦労様でした。そして、新メンバーとして参加される榎 博晃先生よろしくお祈り致します。

(編集委員 島田 辰彦)